

平成20年度病害虫発生予察注意報第6号

平成21年2月3日
鳥取県病害虫防除所

注意報の概要

県東部のラッキョウほ場において、1月下旬以降の雪解け後に白色疫病の発生が急増している。今後、県中部でも発生が増加する恐れがあるため、防除の徹底が必要である。

病害虫名：ラッキョウ白色疫病

- 1 対象作物 ラッキョウ
- 2 発生地域 県下全域
- 3 発生時期 平年並
- 4 発生量 多い
- 5 注意報発令の根拠

- (1) 2月2日現在、白色疫病の発病株率は、県平均で4.3%と多い。特に県東部では、1月23日から2月2日にかけて発病が急増している。(表1)
- (2) 本年は、県全域で1月10日～15日及び24日にまとまった降雪があった。
- (3) 本病は、降雪後の雪解け水や連続降雨により、発病が急速に広がりやすいことから、今後、東部に限らず中部でも発病が増加する恐れがある。

6 防除上注意すべき事項

- (1) 雪解け時や、降雨が続く場合の雨の止み間に、リドミルMZ水和剤500倍液、フロンサイド水和剤1,000倍液又はホライズンドライフフロアブル1,000倍液などを展着剤を加用して散布する。
- (2) 罹病株は、翌年の発生源ともなるので、適切に処分する。
- (3) 白色疫病が発生すると、春期に灰色かび病が多発しやすいので、注意してほ場を観察する。

表1 ラッキョウほ場における白色疫病の発生状況

調査地点	ほ場数	1月23日調査		2月2日調査	
		発生ほ場数	発病株率(%)	発生ほ場数	発病株率(%)
鳥取市福部町	5	2	1.4(1.0)	4	8.3
北栄町	5	2	0.2(0.3)	2	0.3
合計	10	4	0.8(0.6)	6	4.3

発生株率の()内はH11～20年の平年値